

川崎医療短期大学

広報誌 No.105

特集 新体制でのスタート

- 学外研修／スポーツ大会／保健医療福祉概論
- 第1回公開講座／短歌受賞
- 協定会報告／小池将文先生を偲ぶ会／公開講座案内
- 国家試験合格状況／補助金・助成金
- 川崎エコアクション／学友会活動／新任職員紹介
- インフォメーション

看護の心



特集

新学長 椿原 彰夫に聞く 新体制でのスタート



——新たに就任した学長として、現在の川崎医療短期大学をどのように捉えていますか。

創立46年という長い歴史と伝統を持ち、学生に手厚い教育を行ってきた大学であると認識しています。これは、川崎医療福祉大学も同じですが、教員と学生との距離が近い大学というイメージがあります。川崎学園が良き医療福祉人を育成するという理念のもとで教育を行っていることは、県内のみならず近隣県の高等学校の先生や高校生も、よく周知してくださっているようです。

——川崎医科大学、川崎リハビリテーション学院、川崎医療福祉大学と、学園内の要職を歴任されていますが、本学はいかがですか。

最初感じたことは、すれ違う学生の多くが挨拶をしてくれるということです。それは、教員の指導が良いということでしょうが、短期大学であることも関係しているかもしれません。品位ある人格は、医療福祉人には不可欠な要素であると思います。

——これからの川崎医療短期大学について、力を入れるべきことを教えてください。

医療介護福祉科の入学生数は今のままでは不十分ですが、本学だけの問題ではなく、日本全体の介護福祉士の数を増やさなければならないと思います。介護福祉士という職業は非常に重要で、健康寿命を延ばす魅力的な仕事です。その仕事

の内容を国民の多くは、誤解しています。介護は介助ではなく、自立支援でなければならないのですが、そのことを広く啓発する必要があります。まずは、高等学校の校長先生に伝えることから始めて、次は新たな策を練りたいと考えています。

また、短期大学には四年制大学とは異なる良い点がたくさんあります。高等学校の校長先生も本学の存在を重視してくださっています。高等学校を卒業する時点で職業意識を強く持っている学生が短期大学に進む傾向があると思いますので、その点を広報にも反映すべきであると考えています。短期大学の魅力と存在感を、強く伝えていくつもりです。

——教育面で重要と考えていらっしゃることはありますか。

高等学校卒業時点での学力差は、主にそれまでの環境と教育内容の差によるものであると考えています。つまり、たとえ短期大学入学時の学力が低くても、入学後の教育内容によって力をつけることは十分に可能であると思います。勉強習慣のなかった学生には、勉強方法から指導することが基礎学力の修得には重要です。記憶に必要なことは繰り返し学習ですので、その習慣が身につけば、誰でも国家試験に合格できるようになると信じています。

——学業以外で、今の学生に何を求めますか。

何か一つ、打ち込める趣味を持つてほ

しいですね。そうすれば、「時間は作るもの」ということが理解できると思います。本学での勉強は忙しいですが、その合間のゆとりが人間の幅を広くすると思います。

——最後に、これまでの人生で、大切にしてきた信念は何ですか。

私も医師として、「人の命の尊厳」を最重要視してきました。そして、「自分の命は自分のものではない」と考えています。神様がいらっしゃるかどうかは分かりませんが、「私の命は、与えられた、あるいは借りているもの」と信じています。ほとんどの宗教がそうだと思いますが、「授かった命」と言われます。他人から借りた物は粗末にできないのと同じで、人の命も自分の命も大切に扱わなければならないと思います。医療ではターミナルケアについて、「本人の望む最期を迎える」という表現をよく使いますが、患者さん本人には、延命を避けて死を選択する権利は無いと、私は考えています。死を選択する権利は、命を与えた方、つまり神様しかいないと思います。人の命も、自分の命も、どうか大事にしてください。



看護科、医療介護福祉科 新主任ご挨拶



看護科 主任

岡田 みどり

歴史と伝統ある看護科を 明日へとつなぐ

近年、看護師養成校は大きく様変わりしています。四年制大学志向の強まりを受けて看護系大学が急増し、その一方で看護科を有する短期大学は14校（2019年現在）まで減少しています。18歳人口はさらに減少する見込みであり、短期大学はもとより四年制大学も淘汰される時代に突入しています。本学が生き残るためには、「本学ならではの価値」を社会に伝えていくことが必要だと思います。

本学看護科の特長は、46年の歴史と伝統に培われた短大であることです。実践力のある看護師養成を目指し、これまでに4,800人もの卒業生を世に送り出してきました。特に、二つの附属病院では、多くの卒業生が看護管理者、スタッフとして活躍しています。そして、これらの病院の協力を得て、臨床との連携がとれた恵まれた実習環境の中で看護を学ぶことができることも大きな魅力です。何より本学は教育の基盤がしっかりしており、臨床経験豊富な教員が学生一人ひとりに対しきめ細やかな指導を行っています。看護師には、人の尊厳を守り人の心の痛みがわかる人間性が必要です。学生の規範意識や倫理観を育てるために時には厳しい指導もしますが、それは社会人として、責任感ある看護師としての成長を願い、教員が学生に真剣に向き合っているからこそです。

2025年問題として知られる超高齢社会の到来も目の前に迫っており、地域における生活健康支援が必要になる中で、看護職への期待はますます高まっています。地域社会のニーズに応えるために、伝統と実績を受け継ぎつつ、専門性と実践力を備えた看護師養成を今後も継続し、発展させていきたいと考えています。



医療介護福祉科 主任

山田 順子

「医療に強い」 介護福祉士の養成に向けて

医療介護福祉科は、人々の「自分らしく暮らしたい」という想いに介護を通して寄り添いながら、その人の尊厳を保障できる介護福祉士養成を目指しています。

超高齢社会にあつては、それぞれの人が抱える障がいや病気、老いをより深く理解し、住み慣れた地域で人生の最期まで生き続けることを支えられる人材が求められています。本学では、2001年の介護福祉科の開設以来、2012年の医療介護福祉科への名称変更を経て、高度な医療知識と確かな介護技術を兼ね備えた「医療に強い」介護福祉士の養成に努めてまいりました。本学が2学科体制となっても、引き続きこの目的を堅持していく所存です。

超高齢化と介護職へのニーズの高まりを受けて、介護福祉士養成課程のカリキュラムが変更されることになりました。本学でも2021年度から、新しいカリキュラムに移行します。新たなカリキュラムでも、本学の強みである介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上を強化していきます。そのために、医療と介護の科目を再編成し、摂食・嚥下障害と口腔ケア演習を実施し、学園内の病院における病院実習を全国に先駆けて導入する予定です。これらを通じて、チームマネジメント能力の養成、対象者を地域で支えるための実践力ならびに介護や認知症ケアの実践力の向上にも努めてまいります。

今後とも、川崎学園の様々な関連施設の協力を得て、急性期医療から介護、福祉まで、実践的な実習を強化推進し、高度な専門知識と確かな技術だけでなく、深い人間性を備えた介護福祉士の育成を行ってまいります。

学外研修

日時 平成31年4月20日(土)

教員や同級生と親睦を深めるため、入学して間もない時期に学外研修を行っています。

今年度は、看護科、医療介護福祉科それぞれで香川県に行きました。初夏を思わせる陽気の中、道中のバスの中で親睦を図りながら現地へ到着し、金刀比羅宮参拝や中野うどん学校でのうどん作りを楽しみました。

看護科

私にとって、うどん打ちは初めての体験でした。看護科140人の学生が一体となって、音楽に合わせてうどんを踏んで盛り上がり、腰の強いうどんを作りました。共に食事をしたり共通点を持つ友人を見つけたりと交流を深めることができ、有意義な1日となりました。



(看護科1年 野村 友菜)

医療介護福祉科

金刀比羅宮では、段の高さや角度が変わる長い階段のきつさに、何度か上まで行く必要はないのではないかと思います。友人や先輩が気遣ってくださり、奥社まで辿り着くことができました。気持ちのよい達成感を味わうことができた1日でした。



(医療介護福祉科1年 吉井 大登)



スポーツ大会



5月11日(土)に本学体育館で、学友会主催のスポーツ大会が開催されました。これは、新年度になって最初に行われる全学年対象の行事で、1年生にとっては他学年と交流する初めての機会でもあります。今年はドッジボールとバレーボールの2種目のトーナメント戦を行いました。いずれの種目でも熱い試合が繰り広げられ、先生方や応援の学生の歓声が体育館内に響き、大いに盛り上がりました。



試合の結果

ドッジボールの部

優勝：看護科1年D

準優勝：看護科2年A

3位：看護科1年C

バレーボールの部

優勝：看護科1年d

準優勝：医療介護福祉科b

3位：看護科2年b

優勝・準優勝チームには協会から金一封が、3位のチームには本学同窓会の松丘会からお菓子の詰め合わせが贈られました。たくさんの方のお力添えを得て、無事にスポーツ大会を終えることができました。ご協力に深く感謝申し上げます。

(学友会副実行委員長 看護科2年 菅野 桃羽)

保健医療福祉概論

【講演日】7月1日(月)



講師／山本 美也子さん

7月1日(月)の「保健医療福祉概論」において、「思いやりで社会を変える～飲酒運転撲滅への願い～」と題し、NPO法人はあとスペースの代表理事である山本 美也子さんの講演会が開催されました。

山本さんは、息子さんが飲酒運転車両の犠牲となりました。大切な家族を失った深い悲しみの中で、同じような被害者が増えないようにとの願いを込めて、飲酒運転撲滅の取り組みを活発に行われています。講演の中でおっしゃった「明日が当たり前にあるわけではない」「今、この瞬間、

素晴らしい時間を精一杯生きる」「ありがとう、ごめんなさいは今日のうちに伝える」というお言葉は、聴く者の胸に深く刻まれました。そして、「大切な命がなくなって変わる社会ではなく、発信し続けて変わる社会を目指したい」と話されました。最後に、山本さんの「飲酒運転」という掛け声を合図に、会場全員で声をそろえて「ゼロ」と唱和しました。

今回のご講演を通じて、社会を変えることができるのは自分たちであることが学生にも実感できたものと思います。心に染みるメッセージを一人ひとりの学生が受け止め、今自分にできることを考えていってほしいものです。

ご講演くださった山本さんに、改めて感謝を申し上げます。

(教務委員会 居村 貴子)



2019年度

第1回公開講座

6月29日(土)に、川崎医科大学総合医療センター川崎祐宣記念ホールにおいて、「VR(バーチャル・リアリティ)から認知症の人の「世界」を体験～新たな寄り添い方をみつけよう～」をテーマに、第1回公開講座が開催されました。日頃から認知症の人とかかわりのある医療福祉従事者や家族介護者をはじめ、50人の方が参加されました。

認知症VR体験

VR認知症ファシリテーターの堀江 加代子さん(株式会社シルバーウッド)の進行で、最新技術のVRゴーグルを装着し、認知症の症状とされる視空間失認・見当識障がい・幻視を疑似体験しました。体験を通じて、認知症を患う方の感じ方を知ることができ、介護者や家族に対して望まれていることも見えてきました。体験後には、参加者同士で体験した内容や感じた思いを共有する時間も設けました。

講義「認知症介護について」

医療介護福祉科の居村 貴子先生が、街で道に迷った認知症の方に出会った時、どのように声をかけることがその人にとっての安心や、落ち着ききっかけとなるかについて、デモンストレーションを用いた講義を行いました。かかわりのポイントとして、目線・視線を合わせて微笑むこと、そっと見守ること、余裕を持って穏やかに対応することなどを紹介しました。認知症は症状も千差万別であり、一人ひとり個性があるため、その人を知って考えることがケアの第一歩であると説明しました。最後には、いつまでも「あなたらしく」いるために、介護福祉士があなたのとなりにいます、というメッセージを伝えました。

(第1回公開講座主管 医療介護福祉科)



◇日本語に関する取り組み◇

短歌受賞のお知らせ

第24回「前田 純孝賞 学生短歌コンクール」(兵庫県の新温泉町などが主催、選者は歌人の佐佐木 幸綱さん)に、「文章表現」受講の看護科の学生が応募し、6人が入選しました。受賞者とその作品は次の通りです。

海育ちのわたしがもったこの力潮の匂いで天気分かる
新温泉町長賞 看護科2年 内島 菜花

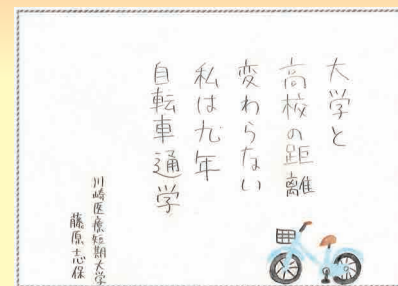
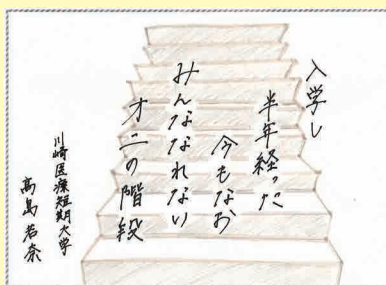
大学と高校の距離変わらない私は九年自転車通学
新温泉教育長賞 看護科2年 藤原 志保

入学し半年経った今もおみんななれないオニの階段
神戸新聞社賞 看護科2年 高島 若奈

夢に見る白衣の天使も楽じゃない夜勤明けには飛べない天使
神戸新聞社賞 看護科2年 森脇 彩加

秋が来ただんじり喧嘩の久世祭りおいさおいさと乗り手も客も
佳作 看護科2年 豆原 佑香

梅瘡に咳嗽反射ファーラー位覚えたらすぐ使いたくなる
佳作 看護科2年 木村 鈴菜



協定会報告

平成31年度 川崎医療短期大学 協定会役員

会 長 大森 雄治（看護科3年）
副会長 浅野 宏之（看護科2年）
副会長 椿原 彰夫（川崎医療短期大学学長）
監 事 太田 知子（医療介護福祉科2年）
監 事 川崎 幸生（医療介護福祉科1年）

平成30年度収支決算書及び平成31年度収支予算書

4月3日の入学式終了後に開催された平成31年度協定会総会において、下表の平成30年度収支決算書及び平成31年度収支予算書が承認されました。これにより、今年度も学生の皆さんの学習、福利厚生、学生生活及び進路等に関する諸活動についての支援が行われます。

平成30年度 川崎医療短期大学協定会収支決算書

一般会計 (円)

収 入	支 出
会費	学生研修助成費
前年度繰越金	厚生福利費
雑収入	学生生活指導費
特別会計からの繰入金	進路指導助成費
	渉外費
	事務費
	雑費
	予備費
	次年度繰越金
合 計	合 計

特別会計 (円)

収 入	支 出
前年度繰越金	携帯電話充電器コネクタ更新費用
雑収入（預金金利）	一般会計への繰出金
	次年度繰越金
合 計	合 計

平成31年度 川崎医療短期大学協定会収支予算書

一般会計 (円)

収 入	支 出
会費	学生研修助成費
前年度繰越金	厚生福利費
	学生生活指導費
	進路指導助成費
	渉外費
	事務費
	雑費
	予備費
合 計	合 計

特別会計 (円)

収 入	支 出
前年度繰越金	次年度繰越金
雑収入	
合 計	合 計

※特別会計は、教育・実習のための施設設備及び学生のために特に必要なものを備えることを目的とした積立金です。

小池 将文先生を偲ぶ会

去る2月25日に享年74歳でご逝去された本学前学長・川崎医療福祉大学名誉教授の小池 将文先生を偲ぶ会が、5月25日の午後に本学体育館で執り行われ、約320人の方々にご列席いただきました。

実行委員長の椿原 彰夫学長からは、小池先生が厚生省（当時）で社会保障制度の整備に携わり、その後、学園で要職を歴任されたことが紹介されました。

弔辞では、東京大学時代の学友で参議院議員の石井 正弘様に続き、本学医療介護福祉科 山田 順子主任、医療福祉大学医療福祉学科 熊谷 忠和学科長、同卒業生代表 泉 宗孝さん、本学卒業生代表 牧本 まどかさんが、それぞれの想いを小池先生のご遺影へ語りかけられました。

献花の後、実行副委員長の名木田 恵理子副学長から参列者へお礼の挨拶があり、引き続きご遺族を代表してご令室の小池 俊子様からお礼のご挨拶がなされ、閉会となりました。

いつも優しく笑顔の絶えなかった小池先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



公 開 講 座

第6回 川崎学園市民公開講座

講座名: すてきな シニアライフ —よりよい人生を生きるために—

日 時

令和元年10月12日（土）14:00～16:00

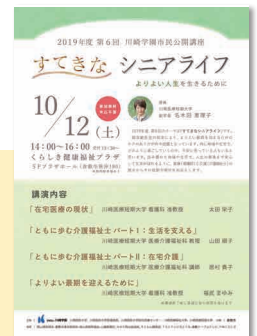
会 場

くらしき健康福祉プラザ 5Fプラザホール
（倉敷市笹沖180）

講演内容

「在宅医療の現状」 本学看護科 准教授 太田 栄子
「ともに歩む介護福祉士パートⅠ：生活を支える」 本学医療介護福祉科 教授 山田 順子
「ともに歩む介護福祉士パートⅡ：在宅介護」 本学医療介護福祉科 講師 居村 貴子
「よりよい最期を迎えるために」 本学看護科 准教授 福武 まゆみ

※参加無料・申込不要・無料駐車場あり



お問い合わせ先

学校法人川崎学園 総務部総務課
〒701-0192 岡山県倉敷市松島577
TEL.086-462-1111

第2回【看護科】

講座名: 足のむくみの原因 と対策について

日 時

令和元年10月20日（日）10:00～11:30

会 場

川崎医療短期大学 体育館 102教室

講 師

坂上 英子（川崎医科大学附属病院 看護副主任）



お申し込み・
お問い合わせ先

〒701-0194 岡山県倉敷市松島316
川崎医療短期大学 公開講座係
TEL.086-464-1032
FAX.086-463-4339
Eメール: koukai@jc.kawasaki-m.ac.jp

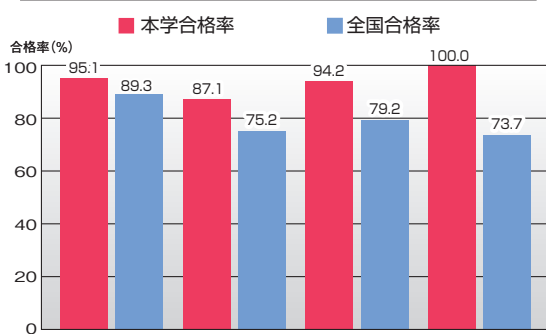
平成 30 年度 国家試験結果と進路状況

3月末に平成30年度国家試験合格発表があり、下図に示したように全国合格率を上回る好成績を取めました。

就職については、就職希望者301人に対して、求人数2,127人、就職率は98.3%でした。進学については、岡山大学等の国公立大学へ5人、川崎医療福祉大学等の私立大学、短期大学等へ5人でした。

各学科の最新情報は、本学ホームページをご覧ください。

平成 30 年度国家試験合格率



	看護科	臨床検査科	放射線技術科	医療介護福祉科
受験日	2月18日	2月20日	2月21日	1月27日
発表日	3月22日	3月25日	3月25日	3月27日

地球温暖化対策ワーキンググループだより

NO. 44

川崎エコアクション

楽しみながらエコライフ

私たちの生活が周りの環境や私たち自身に影響を及ぼしている現状を認識し、少しずつでも何らかの行動を起こしていくような生活スタイルのことをエコライフといいます。

最近の夏は猛暑続きですが、夏の日差しを遮るものとして、ヨシズや緑のカーテンがあります。緑のカーテンは生きた植物で、地面から吸い上げた水を茎の中に蓄え、葉の表面から水を蒸発させて自分自身が熱くならないようにするラジエータ効果があります。また、CO₂削減効果があり、光熱費削減という点でも費用対効果が高いため、公共施設でも設置している所が増えており、夏の必需品になりつつあります。

水やりなどの世話は必要ですが、外は太陽がざらつく猛暑の日でも、窓辺に緑のカーテンがあれば、日差しが和らがりラックス効果もあります。朝顔やフウセンカズラ、トケイソウ、ゴーヤやキュウリなどを植えれば、花や実を楽しむこともできます。皆さんも楽しみながらエコライフを送られてはいかがでしょうか。

(看護科 影本 妙子)

学友会活動

平成30年7月豪雨災害被災者支援のための募金活動

学友会では、募金箱を学生ホールに置いていただき、複数のチームとなって日替わりで募金箱の前に立ち、学内放送で募金呼びかけました。学園祭のチケット販売時にも募金をお願いしました。募金には、教職員の方も協力していただきました。

皆様からの義援金は総額で43,895円となり、年度末の2月21日に日本赤十字社を通じて平成30年7月豪雨災害義援金として被災地へ送金しました。皆様からお寄せいただいた温かいお志に心よりお礼申し上げます。

現在、豪雨災害に関する報道は激減しましたが、被害に遭われた方々は災害以前の生活を完全に取戻されたわけではありません。実際に被害に遭った本学の学生をはじめ、被災地では未だに多くの方が大変な思いをしています。このことを忘れず、これからも寄り添っていききたいと思います。一日も早い復興を心より願っております。

(学友会副委員長 看護科3年 菅野 七海)

令和元年度 補助金・助成金一覧

研究代表者	看護科 准教授 掛屋 純子	令和元年～令和4年(円)	1,820,000
		令和元年度配分額(円)	650,000
名 称	科学研究費助成事業 若手研究 『前立腺がん患者のService Gap尺度の開発と信頼性・妥当性の検討』		
研究代表者	看護科 助教 弘中 藍子	令和元年～令和2年(円)	249,560
名 称	公益財団法人 橋本財団 福祉助成金 『妊娠期における子ども虐待ハイリスク要因アセスメントの実態調査』		
研究代表者	医療介護福祉科 講師 熊谷 佳余子	令和元年～令和2年(円)	290,000
名 称	公益財団法人 日本科学協会 笹川科学研究助成 『病院で働く介護福祉士に他職種が求める連携課題』		
研究代表者	医療介護福祉科 准教授 平口 鉄太郎	令和元年～令和2年(円)	250,000
名 称	公益財団法人 ウエスコ学術振興財団 研究費助成 『老化による筋力低下に対するステロイド類の影響の行動学的解析』		
研究代表者	看護科 助教 原田 佳織	研究代表者	医療介護福祉科 講師 居村 貴子
名 称	公益財団法人川崎医学・医療福祉学振興会 教育研究助成		

新任職員紹介

今年度から本学の仲間になった職員の方々を紹介します。



藤澤 薫 事務室 事務長付参与

4月の異動により大学事務局広報連携室から参りました。本学各学科の教職員や学生さんたちが創ってこられたスクールアイデンティティを、発展させながらより多くの方々に知っていただけるように尽力していきます。共に頑張りましょう。



松若 貴志 事務室 副主任

医療福祉大学や附属病院での勤務経験を生かし、より良い環境の中で、学生の皆さんが勉学に励み、また、教職員の皆さんが教育・研究に打ち込むことができるよう、事務としてサポートしていきたいと思っています。



中桐 俊之 機械室 設備技術員

学生、教職員の皆さんが、毎日、快適な環境で勉学、仕事に励み、快適な学生生活と教育・研究生活を送ることができるよう、各設備の安定的な運転を心がけようと思っています。分からない事や困った事があれば、気軽にお問い合わせください。



久代 昌子 学生寮 事務職員

40年前に本学を卒業し、6月から学生寮でお世話になっています。川崎学園の事務職員として培った経験が、少しでもお役に立てればと思っています。新寮である「このはな寮」が居心地のよい場所になるよう努めていきますので、よろしくお願いいたします。

OPEN CAMPUS 2019

オープンキャンパス 2019 開催スケジュール

●川崎医療短期大学オープンキャンパス

(受付：本学にて)

8/17 13:00~16:00

10/19 10:00~15:00

10/20 10:00~15:00



学園祭同時開催！

●合同オープンキャンパス

(受付：川崎医療福祉大学にて)

川崎医療短期大学・川崎医療福祉大学・
川崎リハビリテーション学院の3校合同開催

2020年 **3/15** 13:00~16:00 (予定)



◆体験・模擬講義、入試概要説明、入試相談、女子寮見学、
施設見学など、豊富なコンテンツ！

◆参加された方に記念グッズなどプレゼント！

◆当日 JR 中庄駅から往復無料バス運行
(10月を除く)

◆駐車場あり(当日無料)



事前申込不要！！

保護者の方や先生方も
お気軽にご参加ください

内容は変更になる可能性がありますので、事前にホームページ等でご確認ください。
<https://j.kawasaki-m.ac.jp>

なお、学校見学は随時受け付けています。その他詳細は、事務室までお問い合わせください。
【TEL】086-464-1033(受付・平日 9:00~16:00、土曜 9:00~11:30)

主要行事 (8月~2月)

8月 17日 本学オープンキャンパス
19日 看護科2年保育園実習 (~22)
24日 AO入試前期 (学生は校内立入禁止)

9月 24日 後期授業開始
// 看護科3年臨地実習終了
// 医療介護福祉科2年介護実習Ⅳ (~10/25)
26日 前期末卒業証書・学位記授与式
28日 AO入試後期 (学生は校内立入禁止)

10月 12日 看護科2年解剖学見学実習
// 第6回川崎学園市民公開講座 (本学担当)
18日 全学科午後休校
19日 学園祭 (~20)
// 10月オープンキャンパス (~20)
20日 第2回公開講座
26日 推薦入試前期 (学生は校内立入禁止)
29日 医療介護福祉科実習開始式

11月 5日 医療介護福祉科1年介護実習Ⅱ (~22)
9日 看護科継続式・保護者会
25日 推薦入試後期 (~26)
// 看護科2年基礎看護学実習Ⅱ (~12/20)

12月 27日 冬期休業 (~1/5)

1月 4日 仕事始め
11日 医療介護福祉科2年実習事例報告会
20日 川崎学園防災の日
20日 看護科1年基礎看護学実習Ⅰ (~25)
29日 全学科午後休校
30日 一般入試前期・センター試験利用入試 (~31)

2月 19日 在学生健康診断
22日 一般入試後期

川崎医療短期大学広報誌 「若きいのち」(105号)

令和元年8月発行

編集発行：広報誌作成ワーキンググループ

河邊 聡子 (医療介護福祉科・責任者)

沖田 聖枝 (看護科)

見尾 久美恵 (看護科)

阿藤 孝子 (事務室・書記)

石原 律子 (事務室・書記)

写真協力：二葉写真館

印刷：友野印刷株式会社

皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194 倉敷市松島316

川崎医療短期大学 広報誌作成ワーキンググループ

電話：086-464-1032 (事務室)

Eメール：kouhou@j.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ <https://j.kawasaki-m.ac.jp>

編集後記

5学科最後の卒業生を送り出してから早5カ月、その間、元号は平成から令和になり、新たな時代が幕を開けました。日本中が沸いた御代替わりですが、本学も、看護科と医療介護福祉科による2学科体制が本格始動しました。新たに椿原 彰夫学長が就任され、新主任が両学科を牽引されることになりました。今号の特集では、本学の新時代を担う3人の先生方にお話とご執筆をいただきました。

「去年より今年はまさり、昨日より今日はめづらしく」(『源氏物語』)は、出会いから22年後、光源氏の目に映る紫の上の姿です。去年より今年、昨日より今日と、常に新鮮な魅力を発揮し、成長し続ける紫の上の理想性が端的に描かれています。本学の学生も、どのような状況にあっても自身を伸ばすための努力を怠らず、いつも新鮮な魅力を発揮できる人であってほしいと思います。

今号から、「若きいのち」は年2回の発行となります。限られた誌面ではありますが、皆さまに有益な情報をお届けする所存です。末筆ながら、ご多用中にもかかわらず、本誌へのご執筆をいただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。

(看護科 見尾 久美恵)